

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	エフビー介護サービスの経営理念7項目を重視し、共有、実践している。	法人の「経営方針書」として経営理念・ミッション・ビジョン・介護方針、各事業所が年度毎に掲げたスローガンなどが記載されたお手帳が毎年全職員に配布されている。曜日毎に読み合わせする項目と合わせて「日常の五心」「社は 十ヶ条」も毎朝唱和しケアの統一に取り組んでいる。理念などにそぐわない言動や行動が職員に見受けられた時には管理者が個々に声掛けをし注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルスの感染予防措置により地域に方々との交流が困難であった。	法人として自治会費を納めている。例年であれば地区のライオンズクラブの中のレオクラブの子供達のリコーダー演奏やボランティアの来訪、中学生の職場体験の受け入れ、職員が地区の餅つきやしめ縄づくり、防災訓練などへ参加するなど、交流が盛んに行われていたが今年度は新型コロナウイルスの影響により全て中止という状態で再開が待たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地区への認知症出前講座など計画していたが、感染拡大により実施できなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し、利用者の状況報告、取り組み報告をおこなっている。又、出された意見はサービスに活かしている(感染症予防のため文書による承認の回もありました)	例年であれば、2ヶ月に1回、奇数月に併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、家族代表、市高齢者介護課職員、地域包括支援センター職員、消防署長、自治会長、区長、児童民生委員、関係職員参加の下開催されていたが、市高齢者介護課と連絡を取り合い新型コロナの感染状況により7月には会議を一旦開いた後は書面により利用者の状況報告や活動報告を行い返信用シートにて意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村、包括との連携は密に行っており、現状は積極的に報告している。	自治センター職員とは新型コロナウイルス禍における運営推進会議の開催について4月の段階で密に連絡を取り合い、5月予定の今年度の第1回から書面での会議に移行するなどの相談をしている。介護認定更新時には代行申請し訪問調査時には日頃の様子などの情報を提供し、同席する家族も多い。介護相談員も例年であれば3ヶ月に1回、2名の来訪があり、帰りには利用者の様子などの情報交換をしていたが新型コロナの影響により今は中止となっている。	

グループホームエフビー御獄堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については年に2回の研修会を行い、全職員が拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	ホームは2階にあるため出入口は自動ロックとなっている。年に2回「虐待防止・身体拘束禁止」をテーマとした内部研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束適正化対策検討委員会が設置されており3ヶ月に1回委員会を開いている。9名中介護度5の方が半数以上と重度化しているため、転倒防止に配慮し家族の同意の下センサーマットを使用している利用者もいる。やむをえず身体拘束をする場合には「身体拘束廃止委員会」を設置し記録に残し常に検討することとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても身体拘束と同様に研修会を行い職員全員が虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	管理者及び職員は権利擁護に関する学習をし、制度の理解と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時、料金の改定時には十分な説明を行い、理解して頂くよう工夫している(説明会などの開催)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様が遠慮なく話せる人間関係が構築できている。(ケアプラン認証などのサインを求めた際には返信用シートを同封し、自由に意見を頂けるようにしている)	意見や要望を表出できる方は重度化に伴い若干名となっている。編み物をしたい、年賀状を書きたいなどの希望があり、家族に馴染みの用品をお持ちいただき楽しんでいる利用者がある。面会は週1回から3ヶ月に1回位であったが、新型コロナウイルスの影響により別室での面会などを工夫し行っていた。現在は感染レベルに合わせ検討し対応している。令和2年11月にホーム名の改称もあり、毎月送付している写真入りのおたよりとともにお知らせをした。家族会はないが年1回収穫祭には家族もお呼びしているが、今年度は中止となった。	ホーム便りなども四季折々に発行し日頃の様子をお知らせすることが望まれる。また、新型コロナの影響により面会がままならない状態から、今まで実施している一人ひとり様子のお便りも更に詳しくされることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、朝礼、職員会議、必要に応じて随時職員からの意見や提案を取り入れようと努力し、反映させようとしている。	月1回職員会議を開き、業務連絡、ケアカンファレンス、研修報告、内部研修などを行っている。運営法人が変わったことから人事考課制度があり、管理者との面談やストレスチェックも行われている。また、今はリモートで行われる法人内の管理者会議が月1回開かれ介護方針などを読み合わせしている。「環境整備に関する方針」が法人として作成されており、「仕事をやり易くする環境を整えて備える」としており、働く環境の整備にも配慮がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人一人の就業環境及び家庭環境などを把握し、向上心を持ち勤務できるような条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は新型コロナウイルスの感染が拡大し、外部研修に出すことが困難であったが、内部研修を充実させトレーニングを行ってきた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流などにも積極的に参加してきたが、職員はなかなか交流する機会が持てなかった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用様の初期面接や利用間もない状況の際はご本人やご家族様から困り事やご希望を聞くようにしており、信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から困り事などお聞きして不安な事、要望に耳を傾けて、ケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めについては必要に応じて他のサービスの利用も考えていく様になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に支えあえる関係作りを目指しているが、9名中要介護5の利用者様が6名おられるため、身体介護中心となりご自身で出来ることが少なくなっている現状である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と共に本人を支える体制が出来ている。変化があれば直ぐに報告連絡を行って情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係や場所の関係が途切れないよう支援したいが感染予防のため外出や面会が困難である。	希望により知人と年賀状のやり取りされる方もいる。入居年数も長く殆どの利用者が訪問理美容を利用しており顔馴染みとなっている。自宅で家族とおせち料理を食べたいという希望もあったが新型コロナウイルスの影響により今年は無断していたという。また、自由に面会や外出が出来るのが待たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の状況や人間関係を加味しながら席順や声がけを工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても告別式、新盆や1周忌など管理者が関係を絶たないように努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人のニーズに基づいた思いや意向を把握しようと努力し、職員会議で報告して共有している。	日々、利用者の希望や要望を聞き、生活に活かしている。利用者の弾くキーボードに合わせて家族も含め皆で歌を歌ったり、家族にハーモニカ演奏して頂いたりしていたが新型コロナウイルスの影響を受け自粛となっており、「収束したらいつでも声かけてください」と声がけをいただけており、利用者も楽しみにしている。利用者からの希望やつぶやき等、聞いた時には申し送りノートに記録し、また、職員間で周知し、希望に応じるようにしている。「つぶやきノート」の検討もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らしや趣味、生活歴など暮らしを把握して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態を把握するように現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で全員のモニタリングを行い、職員間で話し合い、ケアプラン作成に活かしている。	月1回全員参加でケア会議を開き、毎日記録しているケアプラン実行表を基に検討している。6ヶ月を目安に見直しているが状態に変化が生じた時にはその都度見直している。家族には状態をお知らせし、文書で意見を頂き、ケアプランの参考にしている。	

グループホームエフビー御獄堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は本人の言葉を書き記すなど日々の様子がわかる記載方法をしている。又職員間で情報の共有は密にしている。実践への反映も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所は柔軟な姿勢で取り組むために訪問看護の看護師さんや訪問マッサージのスタッフと連絡を取り合い、サービスの多様化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の地域資源と結びつくのは困難な状況であった。施設の近くの地区の行事(春祭り、文化祭)などに参加することもあったが今年度は開催もなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に全利用者9名中7名が契約しており変化があれば直ぐに対応できるようにしている(他2名も緊急時は相談できるよう名体制が出来ている)	利用契約時に協力医があることを話している。協力医による月2回の往診が行われている。若干名の方は利用前からの主治医を継続され受診は家族対応としており、受診の際にはホームの看護師から主治医に情報を提供している。訪問看護ステーションとも契約しており、週1回来訪し全員の健康管理に努めている。協力歯科医の往診が2ヶ月に1回あり、また、歯科衛生士が月に1回来訪し口腔指導を行い、歯科医に情報提供がされている。希望により週2回訪問リハビリによりマッサージを受けている方が三分の一ほどいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの1階に小規模多機能介護施設があり2名の看護師が常勤している。又、訪問看護は利用者全員が登録しており、24時間365日いつでも連絡できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院退院時には管理者兼ケアマネが安心して治療できるようにフェイスシートや連絡票を用いて連携を取っている。又、早期に退院できるように病院関係者と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についても研修を行い、ターミナルケアができるように整備している。10月末に1名の看取りを行いました。	重要事項説明書に「重度化した場合における対応に係るホームの指針」が明記されている。「看取りについての事前確認書」もあり利用契約時に説明し同意を頂いている。状態の変化に伴い看取りについては主治医の立会いの下で再度意思を確認し支援に取り組んでいる。管理者も看護師で、併設のサービス事業所にも2名の看護師がいる。訪問看護ステーションとも契約しており連携体制が出来ている。また、医療(救急対応・AED)の研修も行っている。家族の希望もありホームでの看取りも行われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に関してはすべての職員が応急手当が出来るよう研修会を行い実践できるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い、訓練時には地域の方々に呼び掛けて参加できるようにしている(今年はコロナウイルスの感染防止のため内部の職員のみで行った)	毎年、春は昼間、秋は夜間想定で併設の事業所と合同で年2回消火・通報・避難訓練を行っている。今年度も6月には昼間想定で行われたが新型コロナの影響で秋は延期となっている。年2回のうち1回は消防署立会いで行われている。7月に開かれた運営推進会議には消防署長の参加を頂いており、地域のハザードマップに沿った土砂災害・水害を想定した訓練を年3回行うよう助言を頂き検討中である。万が一に備え、備蓄品も用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーの保護に努めている。(年に1回内部研修を行っている)	6月には「接遇」、8月には「倫理・法令順守・プライバシー保護」の内部研修を行い、利用者を尊重したケアに取り組んでいる。声掛けも大きな声ではなく近くに寄り添い行っている。居室にもノックし声掛けしてから入室している。男性職員は現在いないが、いる時には利用者との馴染みの関係づくりに努め、利用者に希望を聞いてからトイレ介助や入浴介助の支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望の表出がしやすいように職員は折に触れて自己決定しやすい工夫をしている(服はどれを着ますか、お菓子はどれを召し上がりますかなど)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のその人らしい暮らしを把握し、どのように過ごしたいか希望にそって支援できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している(男性の利用者様にはご自分でひげを剃ってもらい清潔感ある生活ができるよう働きかけている)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一人一人の好みやかむ力を生かせるよう工夫している(現在食事づくりの手伝いができる方がいるため)。	食事の前には口腔体操も行いスムーズに食事が摂れるよう支援している。食材専門業者の栄養士が立てたメニューから選択している。行事食も希望メニューを発注し職員が調理している。三分の二の方がご飯のみ柔らかめの常食で、三分の一の方がミキサー食となっている。自らのペースで食事をされる利用者もおり生活しやすいよう支援している。収穫祭や頂いた野菜などで季節を感じていただいている。また、職員のアイデアでホーム内で回転寿司を楽しまれたという。利用者には下ごしらえなど出来るお手伝いをお願いしているが、重度化しており中々困難になりつつあるという。	

グループホームエフビー御獄堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量や栄養バランスに注意して摂取状況(栄養水分)に気を付けて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と連携しており、毎月歯科衛生士による指導を受けています。(グリーン歯科と提携)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排せつパターンを把握し、自立支援に向けたケアを行っている。	布パンツで自立している方が若干名、リハビリパンツとパット使用の方が半数強、オムツ使用の方が三分の一となっている。購入については家族と相談の上、家族が用意される方が若干名で後はホームで購入している。ポータブルトイレについては夜間のみ使用されている方が三分の一、常時使用されている方が若干名となっている。定時誘導と様子を見ながら声掛けし、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。排泄チェックリストの記録により排便コントロールのため浣腸する場合もあるという。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、カスピ海ヨーグルトを食べていたり、体操、レクなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人一人の状態を見ながら、ご本人のご希望に合わせたタイミングで入浴できるよう支援している。	基本的に週2回の入浴としている。浴室にはシャワー台が2つあり広く、浴槽の淵は利用者が腰かけられるようになっている。若干名が一部介助で、多くの方はほぼ全介助で入浴している。また、半数弱の方が併設の小規模多機能型居宅介護事業所のリフト浴を使用し職員二人で介助を行っている。菖蒲湯やゆず湯など季節感も大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活環境週間を把握して安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は薬の目的、副作用を理解し、症状の変化、確認に努めている。		

グループホームエフビー御獄堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活が送れるよう一人一人の生活歴、し好み、楽しみことなど気分転換が図れるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠くに外出することは困難であったが、施設の周りに外出して花壇の花を眺めるなどは行えた。	自力で歩行できる方が半数弱、車いすの方が半数強という状態である。毎年お花見やドライブなどに外出し外気に触れる機会を設けていたが、今年度は新型コロナの影響により外出も中止という状態が続いており、ホームの周りを少人数で散歩している。春の花見や地区の行事が開かれ見学できるのを楽しみにしている。機能低下防止に午前と午後ラジオ体操を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、現在のGH運営上困難な状況がある(お預かり金の禁止などにより困難)家人に連絡して購入してきてもらうことは出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在ご自分から電話で会話できる方が少ない状況であるが、手紙のやり取りは出来るよう支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は環境整備を行い、いつでも気持ちよく使えるよう清掃と工夫をしている。	リビングは天井も高く周りは窓が多く、明るく広々している。浴室はシャワー一台も2つ設置されており、シャワーチェアでもゆっくり利用出来るよう広い浴室となっている。また、ソファも通路に用意され自由に過ごせるようになっている。トイレも車いすが十分回れるよう広く使い易くなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士が思い思いに過ごせるよう居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、共有室は居心地よく過ごせるよう馴染みの物を持参して頂くよう働きかけ、工夫している。	ベッド・洗面台・クローゼットが備えつけられている。クローゼットの中には個々に小引き出しが用意され整理されている。居室には職員からの誕生日のメッセージカードや家族の写真などが飾られている。車いす利用者が多くなったことで持ち込みは少なくなったが、思い思いに過ごしやすい工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人一人の活動に合わせた安全な環境を作っている。		